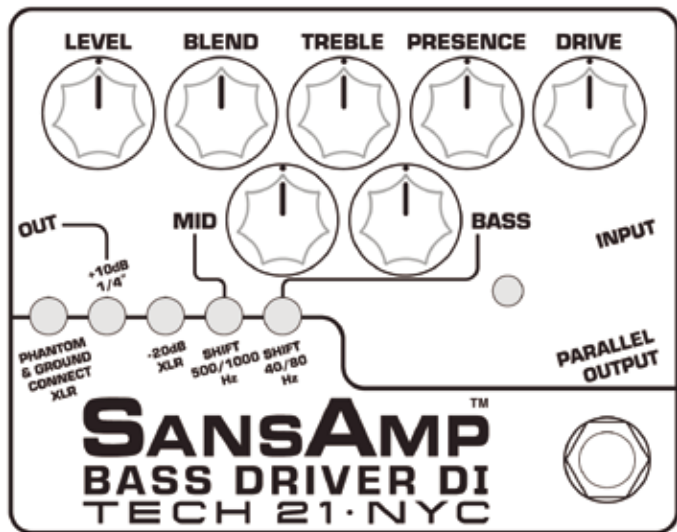


TECH 21



BASS DRIVER DI USER GUIDE

2 使用上の注意

- ◆ 機はベース本体やピッキングスタイルによって様々な信号レベルを出力します。例えば、高出力信号と強めのピッキングはゲインを増加させ、歪みを生みます。低出力信号と軽いタッチは、ゲインを減少させ、歪みにくくなります。プレゼンス、ドライブ、EQ コントロールを使用して、あなたのスタイルに最も適したサウンドとゲインの適切なミックスを探してください。例えば、ハイエンドをよりクリーンでスムーズにしたい場合は、Treble を上げて Presence を下げます。より多くのオーバードライブを望むならば、Presence を増やして Treble を減らす事により高次倍音とアタックを引き出します。Treble を上げると、超高音域の成分を変えず高音域の成分を増やす事ができます
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。SansAmp Bass Driver DI に入るノイズを最小限に抑える為に、以下をお勧めします。
 - a) アクティブベースやバッファード信号は、楽器本体のトーンコントロールをフラットに設定してください。ブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定して下さい。
 - b) パッシブベースは、楽器本体の音量とトーンのコントロールを最大に設定して下さい。
- ◆ 本機を飽和状態(強く歪んだ状態 / サチュレーション)にすると、オーバードライブチューブアンプのように倍音が強調されます。設定によっては独自の回路が過度な入力を制限するため、外部コンプレッサーやリミッターは必ずしも必要ではありません。
- ◆ 演奏のダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常はベース本体を本機に直接接続してください。その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、本機の前にはコンプレッサー、エンベロープフィルター、ワウ等、本機の後にはコーラス、ディストーション(その他)、エコー、リバーブ、ボリュームペダル等を推奨します。

3 接続

ベースアンプとの接続：

プリアンプとして接続：

本製品の出力を直接パワーアンプの INPUT(またはベースアンプの「エフェクトリターン」)に接続します。これによりアンプのプリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

外部エフェクトとして接続：

1/4 インチ出力をベースアンプのフロント入力(メインの入力端子)に接続します。最良の結果を得るには、アンプへの入力が過負荷にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲイン(出力レベルが本機の ON/OFF 時でほぼ同じ状態)に近づけてください。

フロント入力を使用するときアンプを設定するためのヒント：

1. LOW ゲインチャンネル入力に接続します
2. プレゼンスコントロール(該当する場合)を 12 時以下に設定します。
3. アンプ側のトーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。本製品の性能を最大限に引き出す為、ご使用前に必ず内容をご確認下さい。SansAmp Bass Driver DI は 1994 年の発売以来、プレーヤーやエンジニアにとって欠かせない存在となっています。この多機能、多用途のペダルは、ビンテージなチューブトーン、明るくモダンなスラップサウンド、攻撃的な歪み、それらのすべてを再現可能でした。多くの方に愛された前モデルを現代のニーズに合わせてバージョンアップさせたのがこのモデルです。その人気と地位の向上により今や主流になりつつある 5 弦、6 弦ベースに合わせて、より低い音域をカバーする必要があると考え、低音周波数を調整するスイッチを追加。また、ミッドレンジ周波数を調整するためのスイッチも追加しました。他の SansAmp モデルと同様に、本機のコントロールはあなた自身のサウンドをカスタマイズする柔軟性を与えるように設計されています。

3 接続

PA パワーアンプへ接続：

1/4" 出力もしくは XLR OUT を PA ミキサー、もしくは、PA パワーアンプの入力に接続します。本製品の Level コントロールで音量を調節します。

注：アンプのパワーアンプ入力またはパワーアンプを単独で使用する場合は、必ず出力レベルスイッチを次のように設定してください。


1/4" を使用している場合：+10dB オン ()

XLR を使用している場合：-20dB オフ ()

その後、必要に応じてレベルを調節します。

ダイレクトにレコーディングする：

XLR または 1/4" フォン出力をミキサー/レコーダーの入力に直接接続します。ミキサー/レコーダーのインプットゲインコントロールを操作して入力が過負荷にならないように調節してください。本機のレベルが 12 時を下回っていても過負荷になっている場合は、それぞれの出力レベルスイッチを使って出力を下げます。

1/4" フォンを使用している場合：+10dB オフ ()

XLR を使用している場合：-20dB オン ()

これらのフルレンジシステムは幅広い周波数に対応しています。まずは 12 時の EQ レベルから始めてください。

4 コントロール

PRESENCE：

アッパーハーモニクスやアタックを強調する際に使用します。クリーンでスムーズな高域のサウンドを設定したい場合は、このコントロールを低く設定して下さい。

DRIVE：



入力感度、及び全体のゲイン量を調整します。チューブアンプのオーバードライブを再現します。

BASS & TREBLE：

本機のアクティブトーンコントロールは、ユニティゲイン(12 時)から ±12dB カットまたはブーストします。

NOTE：全体的な出力レベルは EQ 設定に関連して変わります。それに応じてレベルコントロールを調節してください。

SHIFT500/1000Hz スイッチは、周波数を 500 Hz () から 1000 Hz () に変更します。

SHIFT40/80Hz スイッチは 5 弦と 6 弦のベースに対応するために、周波数を 80 Hz () から 40 Hz () に変更します。

BLEND：

チューブシミュレーション回路を通ったウェット信号とドライ信号のブレンド量を決定します。通常は最大 (100% SansAmp) に設定します。ただし、ピエゾピックアップを装備したアコースティック楽器などの使用の際には、アコースティックな響きを残すためにドライ信号を混ぜることでバランスを取ってください。Blend が最小の際、チューブシミュレーション回路はバイパスされますが Bass、Treble、Level の各コントロールはアクティブのままです。

LEVEL：

1/4" フォン出力と XLR 出力の両方の出力レベルを調節します。

5 入出力とスイッチ

電源を入れる順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップノイズ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を完全に下げてください。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

INPUT：

1/4" フォン 1MΩ、インストゥルメントレベル。プラグが入力されると自動で電源を ON にします。バッテリーの消耗を防ぐため、本機未使用時はプラグを抜いて下さい。



PARALLEL OUTPUT：

1/4" アンバランスバッファード出力。入力された信号は、EQ やエフェクトがかかるとなく出力されます。

XLR 出力 (Di アウト)：

バランスド 600Ω 出力。EQ やエフェクトのかかった、またはバイパスされた信号をミキサーやレコーダーに出力します。



XLR OUT PAD スイッチ：

さまざまな機器に出力を合わせるための -20dB パッド。アップポジション () では、出力は 0dB、ダウンポジション () では、出力は -20dB です。

1/4" フォン出力：

アンバランスド 1KΩ 出力。EQ やエフェクトのかかった信号をベースアンプまたはパワーアンプに出力します。

1/4" Output Level スイッチ：

さまざまな機器に出力を合わせるための +10dB パッド。アップポジション () では、出力は -10dB、ダウンポジション () では、出力は 0dB です。

フットスイッチ：

SansAmp チューブアンプエミュレーション回路をオン/オフします。オンにすると、LED が点灯し、音色とゲインは各種コントロール設定の影響を受けます。XLR アウトプットと 1/4" フォン出力より効果のかかった状態の信号を送ります。

オフにすると、LED が消灯します。本機はアクティブクリーン DI として機能し、音源の信号は、各種コントロール設定の影響を受けません。

5 ファンタム電源

現在、多くのミキサーは XLR 入力にファンタム電源機能を搭載しています。本機は XLR 出力 (DI アウト) を使用した際、ファンタム電源供給を受けて作動させることができます。ファンタム電源供給時本機は電源アダプターを使用することなく動作ができます。電源は最低 24V ファンタム電源ですが、ヘッドルームを最適化し、LED を点灯させるには、48V ファンタム電源を推奨します。

PHANTOM & GROUND CONNECT スイッチ:

このスイッチを ON にする (▲) とグラウンドが接続され、XLR 出力からファンタム電源の供給を受けることができます。また、このスイッチを OFF にする (■) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

ミキサーにのみ入力する場合:

ベースを本機に接続して XLR Output をミキサーに接続している場合 (そして他のアース機器が接続されていない場合)、アースを接続するにはスイッチを押し込みファンタム電源を ON にする必要があります。

ミキサーとベースアンプに入力する場合:

XLR を経由してミキサーに接続、1/4" フォン出力を使ってベースアンプ (独自の AC アース付き) に接続する場合は、スイッチを「グラウンドリフト」モード用の位置 (■) に設定する必要があります。スイッチが ON/OFF いずれの位置でも、ノイズやバズ音がした場合は、接続している AC コンセントに問題がある可能性があります。

※ビンテージ機器を使用する際は、ノイズ対策をしっかりと行ってください。ビンテージ機器によるノイズの影響は全ての機材に影響する場合があります。

※ファンタム電源を供給する場合でも、9V 電池を接続したままにしてください。ファンタム電源のオン/オフの際に発生するノイズ対策に役立ちます。

6 スピーカーシミュレーション

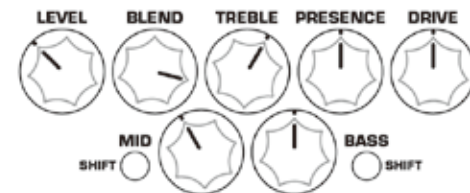
キャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。

注意: 本機にはアンプのスピーカアウト信号を入力する事はできません。誤った接続を行うと本機やアンプ等周辺機器を破壊する恐れがあります。

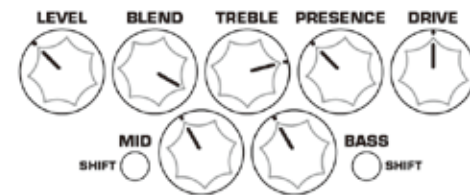
SAMPLE SETTINGS

SHIFT IN ● SHIFT OUT ○

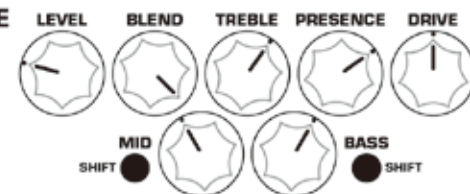
FAT TUBE



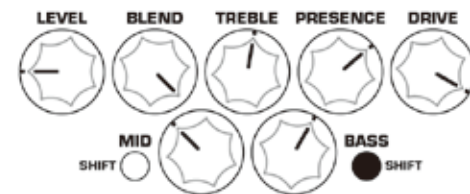
BASSMAN® STYLE



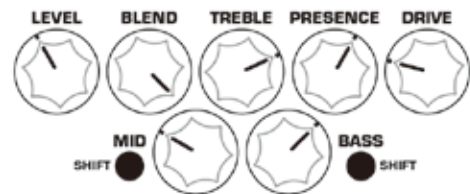
SVT® STYLE



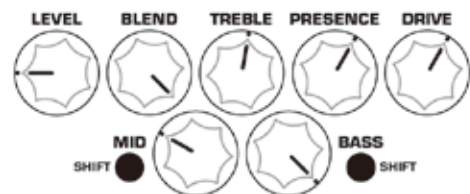
KING'S X STYLE



SLAP



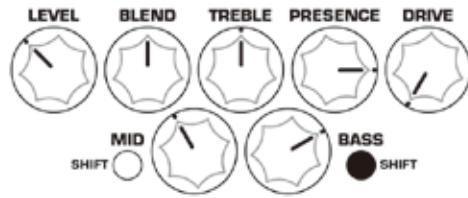
REGGAE



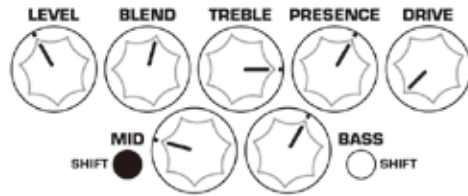
SAMPLE SETTINGS

SHIFT IN ● SHIFT OUT ○

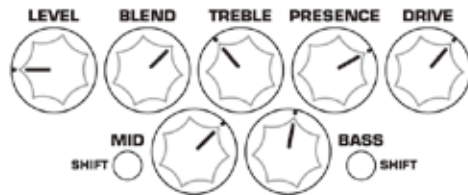
**FULL RANGE/
CLEAN**



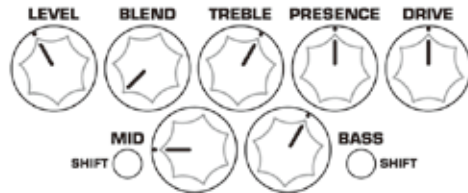
**ACOUSTIC
BASS**



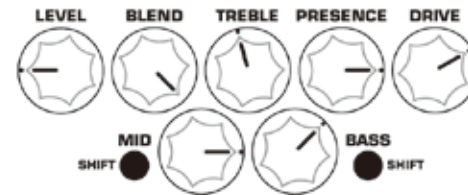
'80s STYLE



**ACTIVE
BASS
EMULATION**



**YES
STYLE**



JACO

